

飯田学園構想について



飯田市教育委員会

(教育委員会事務局 教育センター・教育政策課)

令和7年4月から「飯田学園構想」がスタートしました

変化が激しく、先行きを見通すことが難しい時代に、こどもが生涯にわたって主体的に他者と協働しながら生き抜いていける力の基礎をしっかりと育むため、これまでの教育活動を更に充実させる「飯田学園構想」に取り組んでいます。

児童生徒にとって「**通いたい学園**」
地域や保護者の皆さんにとって「**通わせたい学園**」へ



魅力的な教育活動の実践

小中一貫での特色ある教育

➡ その中核となる「みらい創造科」による探究学習



小中一貫での特色ある教育

小中一貫校としての9つの『学園』で一貫教育を実践

これまでの「連携・一貫教育」の成果と課題の上に立ち、新たな課題も捉えながら、より確かで実効性が高い「一貫教育」を進める段階へと移行します。

- 目的① … 確かな学力を育む
目的② … 生きる力の基礎を育む
目的③ … 地域の担い手・支え手を育む

みらい創造教育(飯田のキャリア教育)を、9年間の発達段階に即し順序立てて効果的に実施します。

各学園では、児童生徒が地域資源・課題を教材に、多様な人と関わる実体験をともなう主体的・協働的で深い学びができるよう、地域ぐるみで地域の特徴を生かしたキャリア教育に取り組みます。

みらい創造教育(飯田のキャリア教育)では、自分で生き方を切りひらき、人とつながって生きる力をそなえ、ふるさとに心根をおいて、未来の地域の担い手や支え手になっていく人を育みます。

- 異学年交流や児童会
生徒会活動交流の充実
- 小小連携の充実



地域ぐるみで支える
(地育力)

教育のあり方
児童生徒の状況等の変化

小学校 → 中学校
小中連携・一貫教育

これまで ← → これから

「学園」における9年間の小中一貫教育

飯田コミュニティスクールとして、
地域ぐるみで特色ある学校づくりを推進します。

学校、保護者、地域住民が力を合わせて行う協働活動により、よりよい学校をつくり、よりよい地域づくりにつなげます。

飯田コミュニティスクールでは、学校運営協議会において、地域ぐるみの協働活動により、地域に開かれ、特色ある学校づくりを進めます。

みらい創造科による探究学習

みらい創造科 ～自分とふるさととの未来をひらく～

小中一貫教育の核となる「教科」を新設し、各学園の特色を生かした学びを進めます。

- ・国の制度を活用して特設する飯田市独自の小中一貫教科です。
- ・小学1・2年生の「生活科」と小学3年生からの「総合的な学習の時間」の一部をあてます。

学習目的	身に付けてほしい力
私の未来をひらく	様々な変化に対応でき、課題を乗り越えながら生きていける力 自ら考え判断し、他者との協働しながら提案や行動ができる力
ふるさととの未来をひらく	ふるさとに愛着と誇りを抱きより良くする取組に参画しようとする意欲 ふるさとを理解し、より良くしていくための多様な発想ができる力

●「みらい創造教育(飯田のキャリア教育)」の中核となる教科に位置づけます。

◎つながる力、みつめる力、ふみだす力、えがく力を育む
「みらい創造教育(飯田のキャリア教育)」の中核となる教科に「みらい創造科」を位置付けて取り組みます。

【つながる力】：他者と関わり、協力・協働することができる
【みつめる力】：自分を知り、主体的に学んだり、行動したりすることができる
【ふみだす力】：課題を見つけ、よりよく解決することができる
【えがく力】：働くことの意義を理解し、自分の生き方を考えることができる

●学校と地域が一緒になってカリキュラムを作り、子どもたちの学びを支えます。

◎学習カリキュラムを、小中学校の先生と地域の方々が、市の共通指針を参考に、各学園の特色や課題を生かしながらつくり、協働して学習を支援します。

●地域の資源や課題を活用し、地域の人と関わる実体験を重視した学びを行います。

◎地域の資源を教材にして、多様な地域の人たちと関わり合う実体験をともなう学習を重ねることで、児童生徒は自分の生き方を考え、生きる力にしていきます。

●探究的な学習を発展的に繰り返し、課題に向かって解決する力を養います。

◎児童生徒が課題を設定して、その解決に向けて情報を集めて整理・分析したり、周囲の人と意見交換したりしながら進めていく「ムトスの学び」(探究的な学習)を繰り返し発展的に行うことで、課題に向かい、他者とも協働して解決していく力を養います。

小中9年間の系統的な
学びを進める

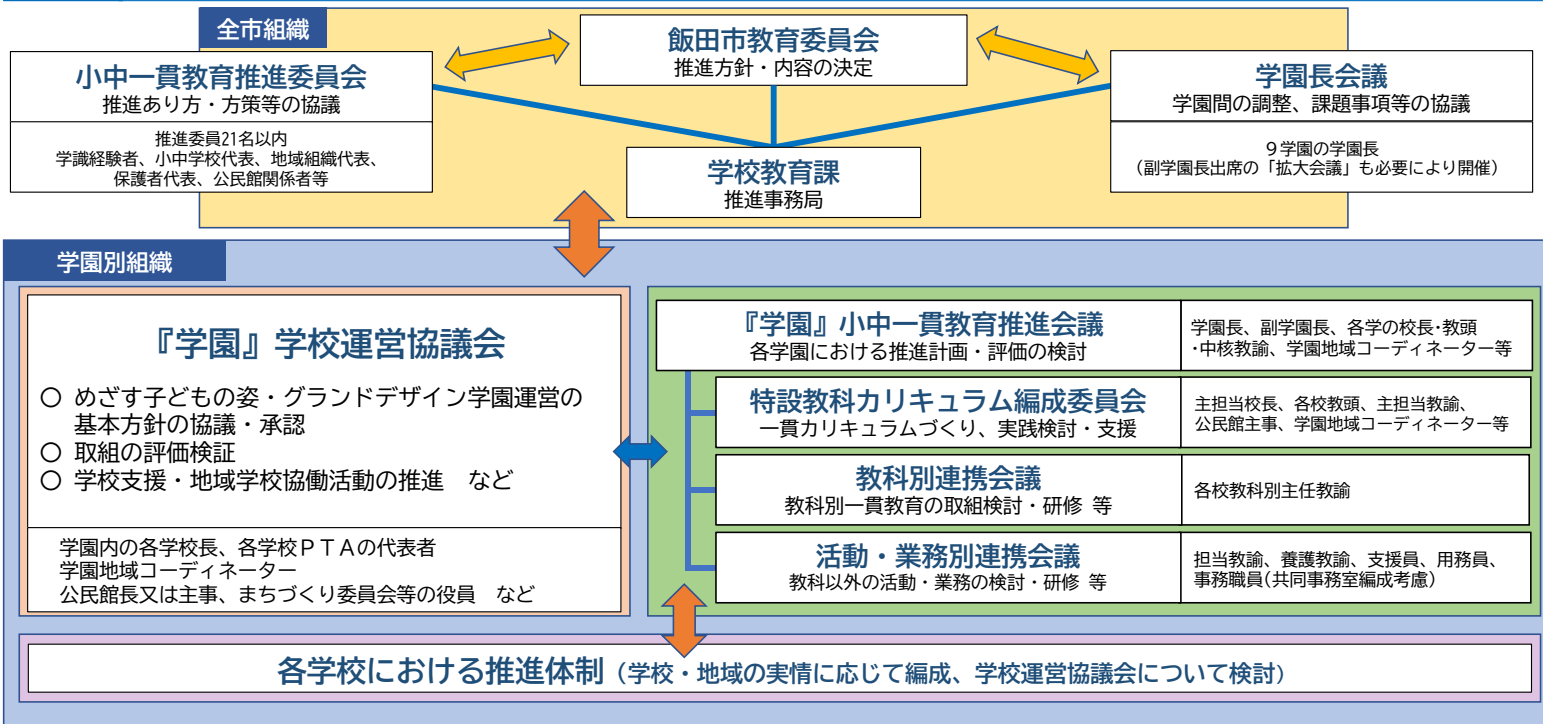
「みらい創造教育」
(飯田のキャリア教育)
を軸に

子どもの学びを
地域で支える

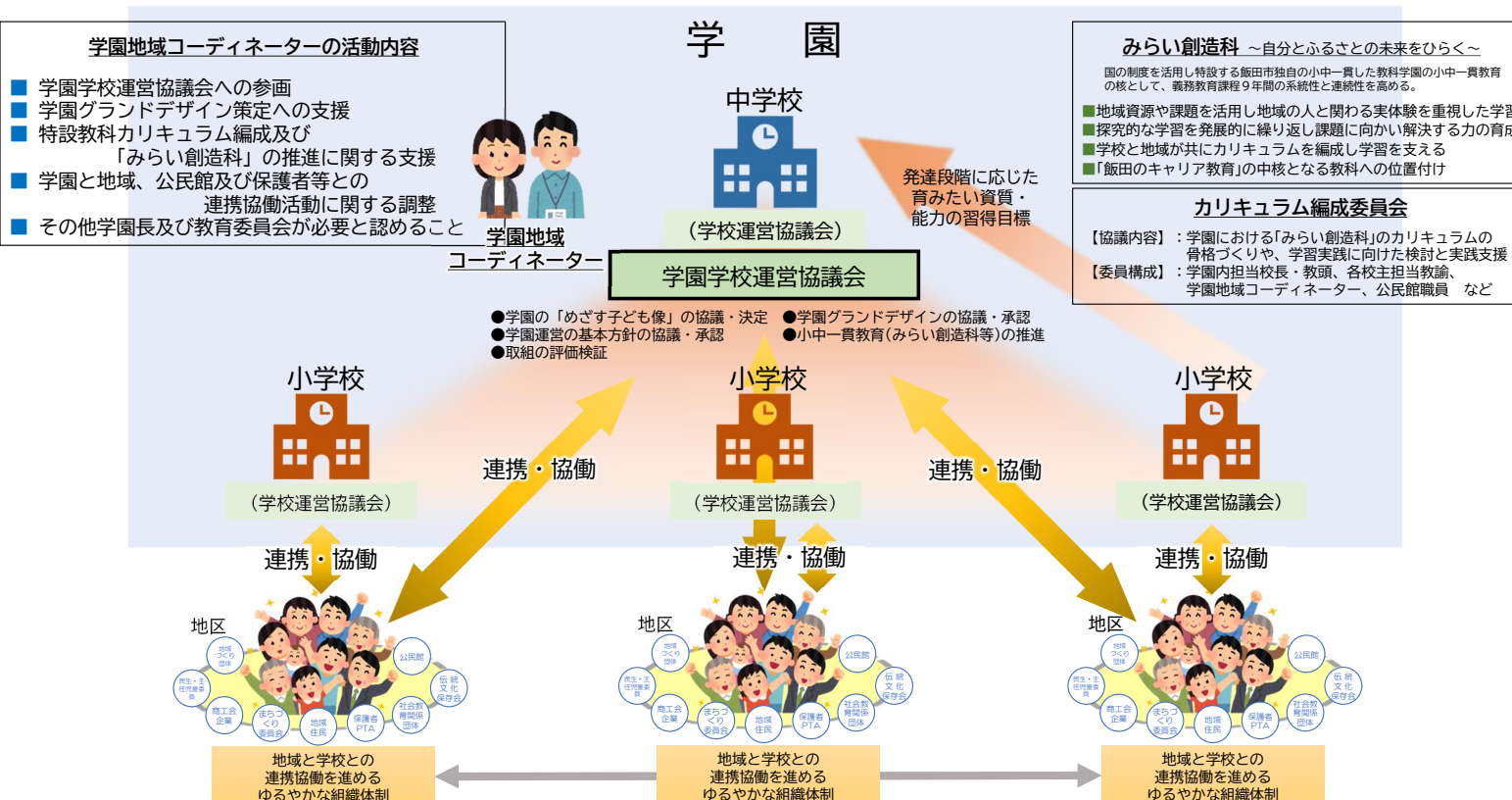


「飯田学園構想」 小中一貫教育の推進体制図

- 基本的な考え方**
- ① できるだけ現在の組織を生かす。
 - ② 学園別組織の構成員・協議内容は、学園及び学園地域の状況や教育目標により工夫可能とする。



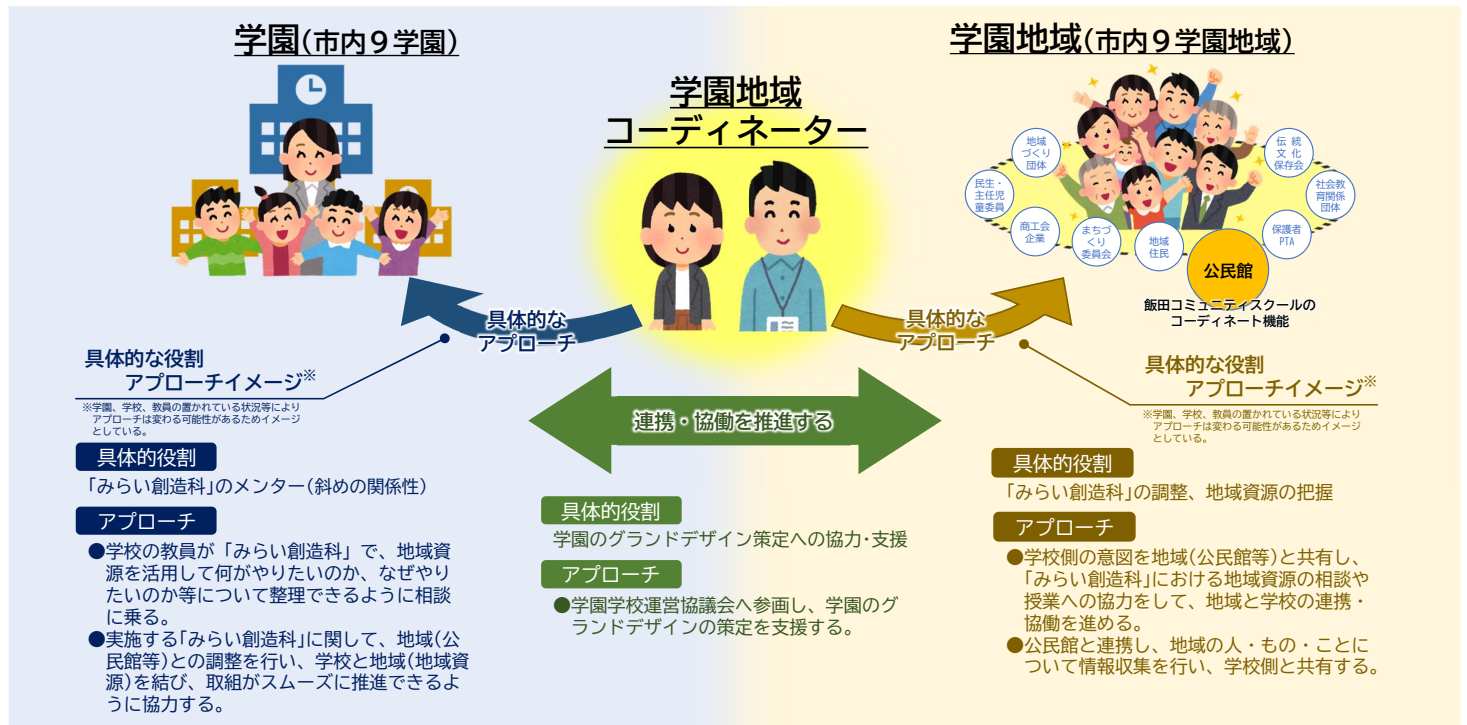
「飯田学園構想」の推進体制（各学園での推進体制の全体像）



「学園地域コーディネーター」の役割及び活動内容について

学園地域コーディネーターの活動内容

- ①学園学校運営協議会への参画 / ②学園のランドデザイン策定への支援 / ③特設教科カリキュラム編成及び「みらい創造科」の推進に関する支援
④学園と地域、公民館及び保護者等との連携協働活動に関する調整 / ⑤その他学園長及び教育委員会が必要と認めること



令和7年度 学園長・副学園長 及び 学園地域コーディネーター

(敬称略)

(敬称略)

学園名	学校名	学園長 副学園長	学園地域 コーディネーター
飯田東学園	丸山小学校 追手町小学校 浜井場小学校 飯田東中学校	学園長 滝澤 勇一 (飯田東中学校) 副学園長 細江 洋司 (追手町小学校)	篠田 典秀
飯田西学園	丸山小学校 飯田西中学校	学園長 小林 康彦 (飯田西中学校) 副学園長 松岡 一成 (丸山小学校)	伊藤 晃
緑ヶ丘学園	松尾小学校 下久堅小学校 竜丘小学校 緑ヶ丘中学校	学園長 田中 直紀 (松尾小学校) 副学園長 大内 敏樹 (竜丘小学校)	羽生 武彦
竜東学園	上久堅小学校 千代小学校 千栄小学校 龍江小学校 竜東中学校	学園長 曾我 佳伸 (千代小学校) 副学園長 松澤 美佳 (千栄小学校)	木下 貴文
竜峡学園	龍江小学校 川路小学校 三穂小学校 竜峡中学校	学園長 喜多 篤史 (龍江小学校) 副学園長 松岡 香代子 (川路小学校)	林 久人

学園名	学校名	学園長 副学園長	学園地域 コーディネーター
旭ヶ丘学園	山本小学校 伊賀良小学校 旭ヶ丘中学校	学園長 北原 重一 (山本小学校) 副学園長 大澤 忠史 (旭ヶ丘中学校)	熊谷 篤
鼎学園	鼎小学校 鼎中学校	学園長 北原 文雄 (鼎中学校) 副学園長 竹村 信之 (鼎小学校)	中井 文彦
高陵学園	座光寺小学校 上郷小学校 高陵中学校	学園長 今井 栄浩 (上郷小学校) 副学園長 宮澤 昭二 (座光寺小学校)	宮澤 傳二
遠山郷学園	上村小学校 和田小学校 遠山中学校	学園長 下郷 貴広 (和田小学校) 副学園長 橋倉 美奈子 (遠山中学校)	小池 真沙美

「飯田学園構想」の具体的な取組 ①

■各学園での動き

① 学園学校運営協議会

- 各学園において、1回目の学校運営協議会を開催
- 委員への任命書の交付、各学園の「めざすこどもの姿」や「ランドデザイン」を策定していくための協議がスタートしている。

飯田東学園	5月26日（月）実施
飯田西学園	5月12日（月）実施
緑ヶ丘学園	5月2日（金）実施
竜東学園	5月2日（金）実施
竜峡学園	5月30日（金）実施
旭ヶ丘学園	5月2日（金）実施
鼎学園	5月15日（木）実施
高陵学園	5月26日（月）実施
遠山郷学園	5月16日（金）実施

② 学園小中一貫教育推進会議

- 各学園において、1回目の推進会議を開催

飯田東学園	5月20日（火）実施
飯田西学園	4月30日（水）実施
緑ヶ丘学園	4月18日（金）実施
竜東学園	5月21日（水）実施
竜峡学園	5月28日（水）実施
旭ヶ丘学園	5月21日（水）実施
鼎学園	4月30日（水）実施
高陵学園	4月28日（月）実施
遠山郷学園	5月1日（木）実施

③ 「みらい創造科」カリキュラム編成委員会

- カリキュラム編成に向け、一部では学園地域コーディネーターを交えて検討が始まっている。

飯田東学園	5月20日（火）実施
飯田西学園	5月26日（月）実施
緑ヶ丘学園	5月2日（金）実施
竜東学園	5月12日（月）実施
竜峡学園	5月28日（水）実施
旭ヶ丘学園	5月21日（水）実施
鼎学園	4月17日（木）実施
高陵学園	5月15日（木）実施
遠山郷学園	4月30日（水）実施

■全市的な動き

① 学園長会議

- 学園長が一堂に会し、改めて「飯田学園構想」について理解を深めると共に、各学園における具体的な動きを支援
4月14日（月）実施

② 小中一貫教育推進委員会

- 地域代表、保護者代表、公民館関係者、学識経験者及び学校教職員が、学園構想の推進について意見交換を実施
6月16日（月）実施

③ 学園地域コーディネーター連絡会議

- 9名の学園地域コーディネーターが一堂に会し、「飯田学園構想」について理解を深めると共に、具体的な活動について情報交換を実施
6月18日（水）実施

「飯田学園構想」の具体的な取組 ②

■研修会や研究会

① みらい創造科研究会

- 田中光顕先生をお迎えし、探究的な学びについて研究
6月10日（火）実施
- 長野県教育長 武田育夫先生をお迎えし、探究的な学びについて研究
8月8日（金）実施予定

■学園支援係職員による訪問・相談

- 各学園の「めざすこどもの姿」や「ランドデザイン」に相談に加え、みらい創造科のカリキュラム構築に向け、「とことん」現場に寄り添った支援を実施中

●以下、学園支援係職員の往訪実績

・遠山郷学園	… 4月30日	・下久堅小学校	… 5月1日
・飯田東中学校	… 5月7日	・緑ヶ丘中	… 5月7日
・竜東学園	… 5月12日	・追手町小学校	… 5月14日
・座光寺小学校	… 5月14日	・上久堅小学校	… 5月15日
・高陵学園	… 5月15日	・旭ヶ丘中学校	… 5月19日
・上郷小学校	… 5月20日	・飯田東学園	… 5月20日
・飯田西中学校	… 5月21日	・丸山小学校	… 5月21日
・旭ヶ丘学園	… 5月21日	・緑ヶ丘学園	… 5月21日
・山本小学校	… 5月22日	・鼎中学校	… 5月26日
・飯田東中学校	… 5月26日	・千栄小学校	… 5月26日
・遠山郷学園	… 5月27日	・竜丘小学校	… 5月28日
・飯田西中学校	… 5月29日	・伊賀良小学校	… 5月30日
・千代小学校	… 6月2日	・旭ヶ丘中学校	… 6月2日
・鼎小学校	… 6月3日	・浜井場小学校	… 6月4日

・竜丘小学校	… 6月5日	・龍江小学校	… 6月6日
・上村小学校	… 6月9日	・三穂小学校	… 6月11日
・高陵中学校	… 6月16日	・松尾小学校	… 6月26日
・飯田西中学校	… 6月27日		



ひさかたチャレンジ 橋復活プロジェクト グループの活動の様子

「幸せの池に、昔のように、楽しき遊べる橋を架けたい!!」との願いから取組がスタート!!

- ★やってみる
池に入って深さを調査。
昔の橋脚を発見!



- ★体験する
どんな橋が良いかな?
昔の橋はどのような橋だったかな?
橋の模型を作ってみよう!

飯田市立小中学校を取り巻く背景1－①

学習指導要領＝学校教育における教育内容の基準
(小学校は2020年度から、中学校は2021年度から全面实施)



11

飯田市立小中学校を取り巻く背景1－②

令和3年1月26日 中央教育審議会

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿
『全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現』

① 個別最適な学び

指導の個別化

- * 支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現
- * 特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う。

学習の個性化

- * 子供の興味・関心に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する。

◆これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整できるよう促していく。

② 協働的な学び

- ◆「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、「協働的な学び」を充実させる。
- ◆集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考えが組み合わさり、より良い学びを生み出す。

◎従来の一斉授業から個別最適・協働的な学びへの転換

①個別最適な学びと ②協働的な学びを 一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。

12

飯田市立小中学校を取り巻く背景2

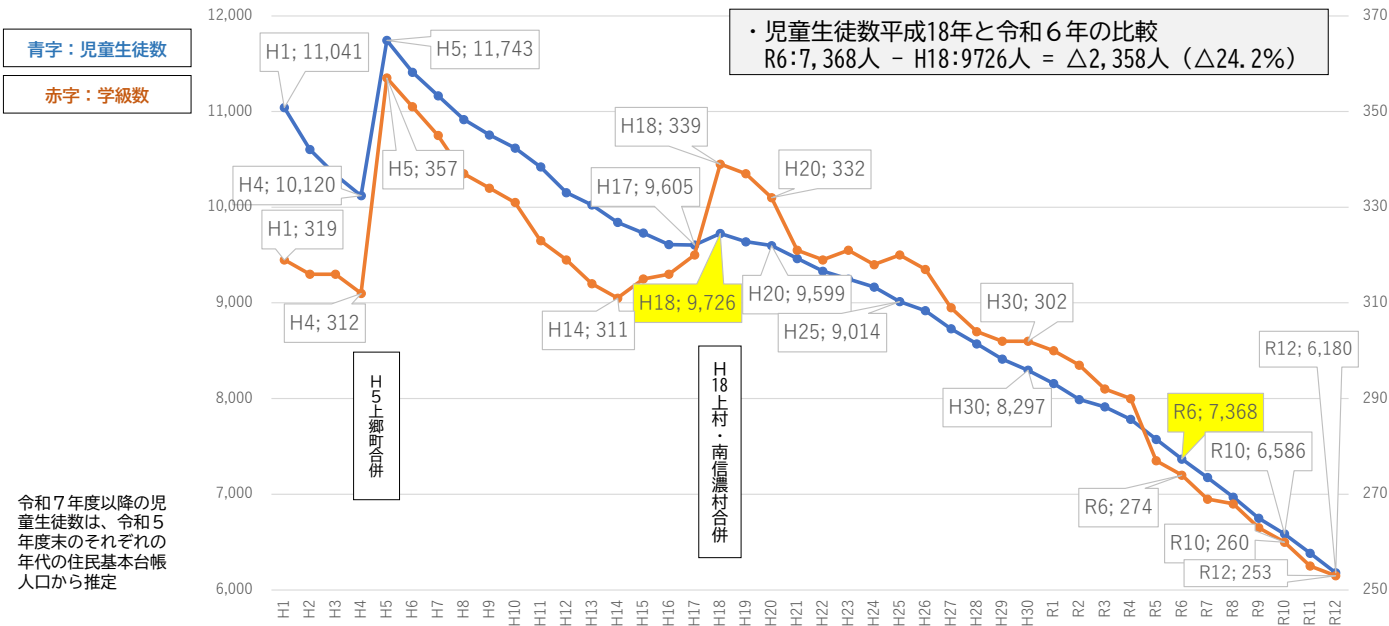
1 少子化に伴う児童・生徒数の減少

- ◆ 児童・生徒数の急激な減少
平成18年度 9,726人 → 令和5年度 7,574人 (22.1%減少)
令和11年度見込み 6,437人 (今後の減少見込み 年間約190人)
- ◆ 学級数の減少
平成18年度 339学級 → 令和5年度 277学級 (18.3%減少)
令和11年度見込み 257学級
※ 現状でも文科省が望ましいとしている規模 (小学校12学級以上、中学校9学級以上) より小規模な学校が多く、その傾向が更に進む。

2 学校施設の老朽化

小中学校28校のうち12校が、令和5年度時点で国の改築目安とされる築後50年を経過、今後10年の内には、25校が長寿命化のための大規模改修や改築についての検討が必要な状況

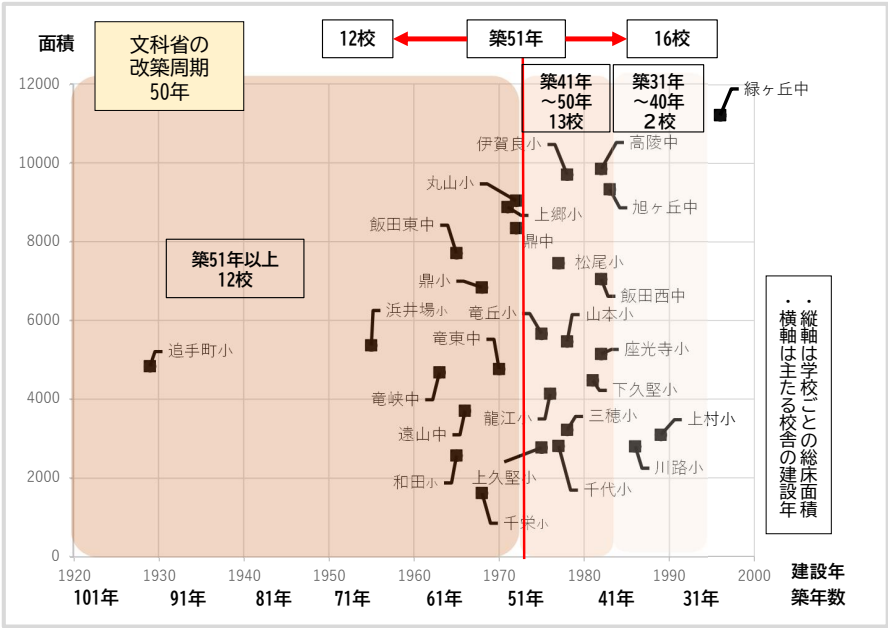
飯田市立小中学校を取り巻く背景2 補足資料
飯田市の児童生徒数・学級数の推移



■少子化に伴い児童生徒数が減少し続けており、このまま推移すると令和6年から令和12年まで、毎年平均約200人ずつ減少し、令和12年は、ピークであった平成5年の約53%になることが予測されます。

■児童生徒数の減少により小規模校が増えて、教職員数も減少していきます。一定の学級数を下回ると小学校では、専科教員が配置されないことや、中学校では全ての教科に専任教員を配置することができなくなります。

学校別整備状況分布（主たる校舎の建築年・令和6年度現在）



- 小中学校28校（小学校19校、中学校9校）のうち、3分の1以上の12校が令和6年度時点で国の改築目安とされている築後50年を経過し、今後10年間の内には、さらに13校を加えた合計25校が長寿命化のための大規模改修や改築についての検討が必要な状況となります。
- 学校施設を長寿命化せずに、現在の学校数のまま修繕・改築していく場合は、今後40年間にわたって毎年多額の費用が必要になり、教育関連事業の実施に多大な影響を及ぼすことになります。